

要望演題 | 1-07 カテーテル治療

## 要望演題3

### カテーテル治療

座長:

大月 審一 (岡山大学病院)

小林 俊樹 (埼玉医科大学国際医療センター)

Thu. Jul 16, 2015 11:00 AM - 11:50 AM 第5会場 (1F アポロン A)

I-YB3-01~I-YB3-05

所属正式名称: 大月審一(岡山大学病院 小児循環器科)、小林俊樹(埼玉医科大学国際医療センター 小児心臓科)

## [I-YB03-02]本邦における経皮的血管形成術とステント留置術の過去10年間の動向; 日本 Pediatric Interventional Cardiology学会 (JPIC)アンケート調査から

○藤井 隆成<sup>1</sup>, 小林 俊樹<sup>2</sup>, 大月 審一<sup>3</sup>, 矢崎 諭<sup>4</sup>, 金 成海<sup>5</sup>, 小野 安生<sup>5</sup> (1.昭和大学横浜市北部病院 循環器センター, 2.埼玉医科大学国際医療センター 小児心臓科, 3.岡山大学 小児科, 4.国立循環器病研究センター 小児循環器診療部, 5.静岡県立こども病院 循環器科)

Keywords:カテーテル治療, ステント, 血管形成術

背景 JPICでは1998年から先天性心疾患に対するカテーテル治療についてのアンケート調査を行っており、現在まで10年以上のデータが蓄積された。方法調査項目がほぼ確立した2000年から2013年までの肺動脈狭窄 (PS) と大動脈縮窄 (CoA) に対するバルーン血管形成術 (PTA)、ステント留置術 (Stent) の症例数と合併症の推移を未手術症例 (native)、術後症例 (post op) にわけて検討した。結果調査期間中の手技別の件数は、PS PTA 6624 (native 433、post op 6191) 件、PS Stent 6624 (native 43、post op 854) 件、CoA PTA 1661 (native 363、post op 1298) 件、CoA Stent 126 (native 60、post op 66) 件であった。年次推移ではPS post op PTAが2000年の193件から2013年の547件と明らかな増加傾向を示していた。合併症率は、PS PTA 2.0 (native 2.3、post op 2.0) %、PS Stent 7.2 (native 9.3、post op 10.4) %、CoA PTA 3.4 (native 7.4、post op 2.3) %、CoA Stent 15.9 (native 10.0、post op 21.2) %であり、CoA PTA nativeを除いてStentでPTAより有意に高率であった。一方、重篤な合併症 (外科手術介入、死亡、中枢神経系合併症の合計) の頻度は、CoAではStentでPTAより有意に高率であったがPSにおいては差がなかった。結語過去14年間のPS、CoAに対する経皮的血管形成術の動向を調査した。PSに対する血管形成術の頻度は経年的に増加傾向である。合併症はStentでPTAより多いが、重篤な合併症はPSでは両者に差を認めなかった。